

朝倉市秋月町における歴史的池泉庭園の特性と経年変化

永松義博*, 松尾麻衣子

庭園デザイン学研究室

2011年10月13日受付; 2012年1月26日受理

**The characteristics and the change over time of historical Japanese pond gardens
in Akizuki-cho, Asakura-shi**

Yoshihiro Nagamatsu*, Maiko Matsuo

*Laboratory of Garden Design, Department of Environmental Horticulture,
Minami-Kyushu University, Miyakonojo, Miyazaki 885-0035, Japan*

Received October 13, 2011; Accepted January 26, 2012

With the changes of living environment, the gardens rich in local character has recently begun to disappear. This research focuses on the current condition of historical gardens scattered around Akizuki district in Fukuoka prefecture, Kyushu, and the results of an opinion poll of the owners.

Compared to the last investigation held in 1993, 17 out of 19 gardens have some changes in these 17 years: some have vanished or partially lost, or converted into dry landscape yards.

The main reasons for these changes are caused by deterioration of water quality, decrease of water amount and extension and reconstruction of the concerned houses. The main reasons for these changes are caused by deterioration of water quality, decrease of water amount and extension and reconstruction of the concerned houses. Moreover, due to aging or absence of owners, most of the gardens are no longer tended on a daily basis and thus fall into ruin. In pond type gardens, shortage of water worsens the waterway environment and consequently it spoils the townscape. It becomes apparent that the preservation of waterways and maintaining of water supply are future subjects for Akizuki.

Key words: Akizuki, garden type, historical garden, waterway.

1. はじめに

秋月は福岡県南部に位置し、古処山（859.5m）の麓にひらけた小盆地で、小石原川の支流である野鳥川が流れている。東西12 km、南北10 km、およそ120km²の面積を有し、その80%までを山林が占めている。秋月は鎌倉時代に秋月氏が古処山の山頂に本城を構えたことに始まるが、秋月氏は天正15年(1587)豊臣秀吉によって日向高鍋へ移され、その後小早川隆景を経て、関ヶ原戦後は福岡藩黒田長政の支配するところとなった。元和9年（1623）三男長興が五万石を分知され秋月を居城に定め、翌年城下の屋敷割と町割を行って近世城下町秋月の礎を築いた。現在の道路形態、町割の原型

が完成したのは、寛永元年（1624）、黒田長興が城下の縄張りを行ってからのことである。黒田氏は、盆地東南部に館を構え、明治維新までの約250年間城下の経営にあたった。

城下町には城の周辺に武家屋敷が形成され、屋敷内に庭園が造られた。多くの庭園には池が設けられた。池水は屋敷脇を流れる水路から導水し、相互に結ばれている。水路水を利用し、水路に戻すという流水システムである。九州地方で現在、この流水システムを持つことで知られている城下町として長崎県雲仙市国見町神代地区、福岡県柳川市も存在している¹⁻⁵⁾。

近年、生活環境の変化に伴い、郷土色豊かな庭園が消失し始めており、今後の存続が危ぶまれている。

本研究は水路のシステムに着目し、秋月町を流れる水路網の現状と秋月町内に散在する歴史的庭園の現状を調査し、庭園の変化とその要因を明らかにし、庭園

*連絡著者



図1. 秋月御城下絵図 明和5年(1768)(原図サイズ 191×166cm)



図2. 秋月御城下絵図 文政2年(1819)(原図サイズ 158×158cm)

所有者の意識調査をもとに今後の保全のあり方を探ることを目的とした。

2. 研究方法

文献史料などによる秋月城下の構成の把握と、現存する池泉庭園や水路の性格や特徴について現地調査をおこなった。江戸期の秋月城下の変遷や歴史的背景については、福岡県立図書館所蔵の「秋月御城下絵図」や秋月郷土資料館所蔵の史料をもとに調査した。

池泉庭園の調査は、分布状況や庭園特性の検討、庭園の保存状況の現況調査、所有者の庭園に対する意識調査を行った。庭園の保存状況は今回の調査結果と1993年の庭園実測図の結果を比較して、17年間の経年変化で検討し、変化要因の調査を行った。また所有者の庭園に対する意識調査では、日常生活で感じる湿気、池泉の水量、水質、ごみの問題、庭園保存の意思やその理由などを聴き取り調査した。現地調査は19庭園を対象とし、2009年7月、8月及び2010年3月、5月、12月に実施した。

3. 秋月城下の町並み構成

城下町秋月の様子は図1に示す明和5年（1768）の秋月御城下絵図と図2の文政2年（1819）の御城下絵図の二枚の城下絵図から窺い知ることができる。城下の内と外を結ぶ街道が城下の町割の基本をなし、街道は東西、南北に走り、盆地のほぼ中央で直交している。東西の街道の南側には東から西へ蛇行して野鳥川が流れ、眼鏡橋に至っている。また秋月の城下は武家地と町人地に分けられ、水路が張り巡らされていた⁹⁾。

図3は文政の城下絵図をもとに1/10000の図面に町並みの構成を模式化したものである。現在の道路の位置や地形から当時の武家地と町人地を区分し、河川・溪流と分流された主な水路を示した。また今回の調査対象とした屋敷や池泉庭園の位置も同時に示した。現在の秋月の街路は文政の絵図と比べてもほぼ同様に町割りとは当時と変わっていない。武家地は秋月城（現秋月中学校）の西から北側に位置し、城下の野鳥川上流部を占めている。武家地の中心となる秋月城の西側には、街道から城門へ続く杉の馬場と呼ばれる街路を基準とした方形の小路がみられる。絵図によると武家地は小路で区切られたブロックを基準としており、ブロック内はさらに数軒の敷地に分割されている。町人地は東西に延びる街道の西側と直交して南北に延びる新八丁越に続く街道沿いに位置している。東西の街道沿いの町は西から魚町（下町）、中町、新富町（上町）と称され、長さは約420mにも及んでいる。この町並みは、たびたび火災に見舞われており、「秋月御年譜」⁶⁾（秋月郷土資料館所蔵文書）や「望春随筆」⁷⁾（秋月郷土資料館所蔵文書）には町人地の大火の詳細な記録が残されている。しかし、防火用水の敷設と瓦葺きの普及により、文政12年（1829）を最後として大火災の発生はみられず、その時焼け残った町家を核として、現在まで残る町並

みが形成されていった。さらに井戸水に代わる飲料水確保のため、野鳥川を源流とする人工水路の整備が行われてきた。その水は洗水、浴用水などの日常生活用水としても幅広く利用された。野鳥川から分流させた用水が町中を縦横に貫流し、屋敷地の中を縫うように流れるさまは絵図からもみることができる。

秋月藩の人口は、享和元年（1801）から弘化2年（1845）の45年間に増加しており、特に町人の人口の伸びが著しい。これは享和2年（1802）に蒲泉町が独立して一つの町になったことからわかるように、近世後期の秋月が経済的に大きく発展したことを示している。「望春随筆」⁷⁾（秋月郷土資料館所蔵文書）、文政期（1818～1829）の「風土記再調草稿」⁸⁾は秋月の産物として寿泉苔、元結いをあげ（図4）、その他にも塵紙、蚕糸、葛粉などが記されており、秋月にはこのような商品生産者以外に米屋、魚屋などの商人や武具職などの職人も多数居住していたと思われる。

4. 水系

秋月城下には古処山系から流れてくる野鳥川、天神川、鳴渡川、空谷の4本の河川・溪流がある。野鳥川は幾つかの水路に分岐して、他の水系の水路と合流し、水系のネットワークを形成している（図5）。この水系は、明和期や文政期の古地図と比較してもほとんど変化は見られない。かつて造酒屋や紙漉屋がその水を利用していたが、今ではほとんどが農業用水である。武家地を流れる水路は野鳥川から取水され、主に武家地内の小道に沿って流れている。これらの水路の多くは野鳥川にもどるが、一部は空谷からの水路と合流して南側に流れている。

町人地区を流れる水路は、上野鳥の水門で野鳥川から分かれ、さらに幾つかの水路に分岐して流れている。町人地付近では鳴渡川からの水路と合流し、家の並ぶところでは表通りの道路の両端と町家の裏を流れ、下流で野鳥川にもどっている。調査庭園のある中町・魚町地区の街路の両側には水路が流れている。北側の水路は近年になって設けられたもので、南側のものが古く、明和絵図にも記されている。一方、水路の設けられていない地区では、町家の主屋の裏側に各々の庭園を貫く水路が通されている。元来この水路は防火用水として設けられたといわれるが、一方では生活用水として近年まで用いられていた。かつては随所に見られた「洗い場」（水路を切り下げたもの）も今では北側地区の裏を貫流する水路沿いにいくつか残っているに過ぎない。

5. 秋月地方の庭園の特徴

表1は、庭園の分布域ごとに町名と庭園名、設置者をまとめたものである。

表2は秋月地方の庭園特性を池の形状、庭園面積、水面率、庭園形式、取水口、池水の流れについてみたものである。筆者らが1993年以降に調査した庭園を追加し、庭園の存在する町別に一覧表にしたものである。



図5. 秋月の水系図

庭園の多くは観賞式の小庭で池泉定視の形式を採っている。
秋月の城下町の構成をみると野鳥川の上流部と秋月

城の西側に武家地があり、野鳥川の下流部の街道沿いが町人地となっている。庭園は武家屋敷の庭と町屋の庭に大別できる。武家屋敷庭園は、敷地規模も広く、屋敷の外周は土堀、マキ、スギの生垣、矢竹の竹垣などで囲われている（図6）。庭は玄関前の前庭、座敷に面した主庭、農作業用の庭にわけられ、敷地内に畑を持つ例も多い。主庭は南面に造られ、池を中心に背景に築山を設け、石組、配植がなされている。庭園は周囲の山々を借景に取り入れ、微地形を活用する等の意匠上の工夫もみられるが社会的な必要性から、広い武家地においても実用を兼ねた池泉庭園が形成されていたと考えられる。

町家は敷地が狭く、奥の座敷、渡り廊下、離れに囲まれた坪庭があり、そのわきに用水や井戸に接して小さな生活用の庭がつくられ、裏の畑につながっている例が多い（図7）。図8は水路を取り入れた町家の庭園の模式図である。町家の通りには水路が流れ、町屋は街路に直接面して主屋が建てられている。その裏には水路から導水し、池を配した平坦な庭園がある。池は水路に平行して造られ、水路は各戸の池庭を貫流しており、住人の相互理解、親近性をもつくりだしている。住居の間口は狭く、奥深いという特異性をもっているため、良好な通風、採光環境を求めることができず、悪条件を解消するための空間として庭がつくられていったとも考えられる。庭は住空間に不可欠の通風、採光、換気

表1. 分布域・町別の庭園設置者			
分布域	町名	庭園名	設置者
武家地	浦 泉	吉 岡 邸 庭 園	武家
		久 野 邸 庭 園	武家
		白 水 邸 庭 園	武家
	上野島	上野島後藤邸庭園	武家
	下野島	下野島戸波邸庭園	武家
町人地	今小路	市 田 邸 庭 園	武家
		坂口（正）邸庭園	商家
	新 富	坂口（繁）邸庭園	商家
		坂口（良）邸庭園	商家
	中 町	白 木 邸 庭 園	商家
		石 田 邸 庭 園	商家
		興 膳 邸 庭 園	商家
		高木（節）邸庭園	商家
		高木（文）邸庭園	商家
		井 村 邸 庭 園	商家
		大 庭 邸 庭 園	商家
		田 尻 邸 庭 園	商家
	魚 町	小 川 邸 庭 園	商家
		篠 原 邸 庭園	庭園

表2. 秋月地方の庭園特性

所有	町名	庭園名	庭面積	池面積	水面率	庭園形式	池タイプ	池水の流れ
武家屋敷	蒲泉	吉岡邸庭園	290m ²	38m ²	13 %	池泉定視式	流水＋池泉型	東→西
		久野邸庭園	497m ²	75m ²	15 %	池泉回遊式	流水＋池泉型	北→南
		白水邸庭園	382m ²	73m ²	19 %	池泉定視式	池 泉 型	北→南
	上野島	後藤邸庭園	360m ²	42m ²	12 %	池泉定視式	流水＋池泉型	北→南
	下野島	戸波邸庭園	507m ²	61m ²	12 %	池泉定視式	流水＋池泉型	東→西
		市田邸庭園	275m ²	34m ²	12 %	池泉定視式	池 泉 型	東→西
町家	今小路	坂口（正）邸庭園	620m ²	30m ²	5 %	池泉定視式	流水＋池泉型	東→西
	新富	坂口（繁）邸庭園	182m ²	36m ²	20 %	池泉定視式	流水＋池泉型	北→南
		坂口（良）邸庭園	194m ²	38m ²	20 %	池泉定視式	流水＋池泉型	東→西
	中町	白木邸庭園	188m ²	37m ²	20 %	池泉定視式	流水＋池泉型	南→北
		石田邸庭園	180m ²	36m ²	20 %	池泉定視式	池 泉 型	東→西
		興膳邸庭園	176m ²	35m ²	20 %	池泉定視式	池 泉 型	東→西
		高木（節）邸庭園	102m ²	20m ²	20 %	池泉定視式	池 泉 型	東→西
		高木（文）邸庭園	360m ²	96m ²	26 %	池泉定視式	池 泉 型	東→西
		井村邸庭園	21m ²	2m ²	10 %	池泉定視式	池 泉 型	東→西
		大庭邸庭園	91m ²	19m ²	21 %	池泉定視式	池 泉 型	東→西
	魚町	田尻邸庭園	22m ²	3m ²		池泉定視式	池 泉 型	東→西
		小川邸庭園	18m ²	2m ²		池泉定視式	池 泉 型	東→西
		篠原邸庭園	19m ²	0.7m ²		池泉定視式	池 泉 型	東→西



図6. 戸波邸庭園実測図

のための空間であり、機能性の追求から生まれ、住生活と密着した形で存在してきたといえる。また町屋の流れを伴う空間には洗い場、水汲み場、作業場が設けられている。住民の生活の場として水の機能に着目し、実用を兼ねた池庭がつくられているといえる。

6. 庭園の変化状況

庭園の現状と過去16年間の経年変化をみたのが表3である。各庭園の変化箇所・状態・変化内容・変化理由を示した。所有者別に状況を見ると武家屋敷の庭園では比較的保存状態が良いことがわかる。一方、町家の庭園は池泉護岸の改修や枯山水化といった変化が多くみられる。変化のない庭園は19庭園の中で2庭園の



図7. 坂口繁雄邸庭園実測図

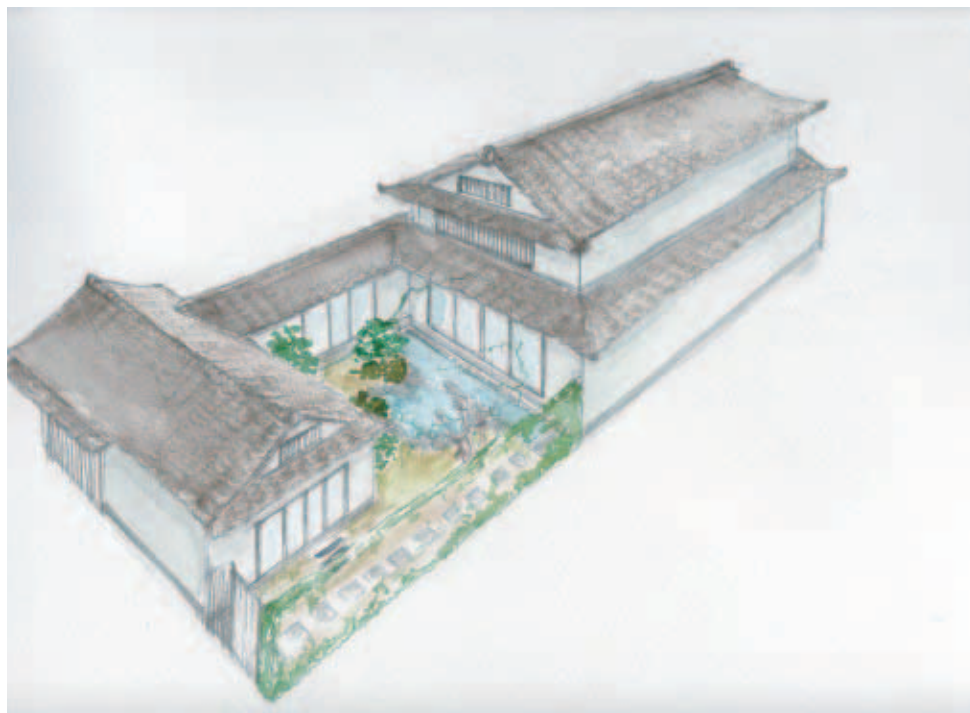


図8. 水路を取り入れた町家の庭園

みであるのに対し、何らかの変化がみられる庭園は17庭園である。変化した箇所は池泉が圧倒的に多い。

表4は池泉の変化状況をまとめたものである。家屋の増改築により、池泉が縮小した庭園が8ヶ所で最も多い。池泉庭園が枯山水庭に改修されていた庭園や池水が枯渇した庭園は5庭園にものぼる。写真1は池泉の一部が消失して縮小した吉岡邸庭園の例である。駐車場確保のため庭園が縮小され、水量減少、水質汚濁のため池泉は埋め立てられている。写真2は池泉がコンクリートブロックに変更され池の形状も変化した田尻邸庭園である。写真3の後藤邸庭園は枯山水化した例であるが、護岸の石積みは荒廃し、取水路に土砂が堆積し、池泉は枯渇している。

図9は所有者の聴き取り調査で庭園変化の理由（複数回答）をグラフで示したものである。庭園の変化理由は「水量減少」が最も多く5割以上を占め、次いで「水質汚濁」が4割以上である。このことは池泉庭園の変化が池泉そのものの問題に起因していることを表している。すなわち秋月地方においては水路網の水環境が池泉庭園の保全に直接影響するといえる。ただし、家屋の増改築・管理困難など所有者の個人的な理由もあげられている。

7. 所有者の意識

庭園所有者の意識調査は、消失した井村邸庭園以外の18庭園で行った。池泉庭園と日常的な湿気との相関関係については表5の通りである。「不快感はない」という回答は18庭園中11庭園で過半数を占め、「時に多い」という回答は7庭園であった。池泉の水量の変化についてまとめたのが表6である。「少ない」という回答が18庭園中、18庭園すべてにのぼっている。池泉の水質について表7に示している。「悪化」という回答は18庭園中17庭園である。変化を感じないという回答は僅かに1庭園のみである。

表8は池泉にあるごみについて調査した結果である。落ち葉や枯れ草など自然ごみの割合が18庭園中10庭園と最も多かった。プラスチックなどの日常生活で使われるごみをあげた庭園は9庭園であった。

所有者が保存の意思を示した庭園は15であった。保存したい理由は表9に示すように「昔からある」「心が和む」「自然を楽しめる」という回答が多かった。また保存期間は表10のように「自分の代」との回答が多かった。保存意思のない所有者が保存できない理由としてあげたものを表11にまとめた。その主なものは「管理困難」「水質の悪さ」という回答であった。

以上の結果から多くの庭園所有者は池泉庭園に愛着や親しみを持っており、少なくとも自分の代だけでも存続させたいと考えていることがわかった。しかし、池水の状態悪化や管理上の理由から庭園の存続が難しいと考える所有者も少なくないといえる。



写真1. 池泉が消失した庭園（吉岡邸）



写真2. 池泉がコンクリート化した庭園（田尻邸）



写真3. 枯山水化した庭園（後藤邸）

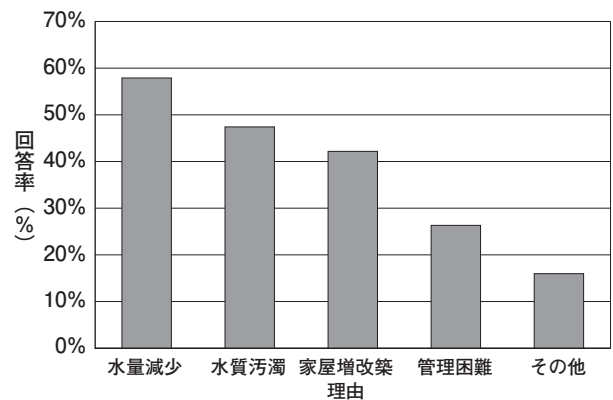


図9. 庭園の変化理由（複数回答）

表3. 秋月地方の庭園変化状況

所有	町名	庭園名	変化箇所	状態	変化内容	変化理由
武家屋敷	蒲 泉	吉岡邸庭園	池泉	枯山水化	池泉消失	水量減少 水質汚濁 駐車場確保のため
		久野邸庭園	変化なし	変化なし		水量減少
		白水邸庭園	池泉	枯山水化 池泉縮小 護岸改修	池泉を縮小 一部が畑 池泉埋め立て	水量減少 水質汚濁 家屋増改築 管理困難
	上野島	後藤邸庭園	池泉護岸	枯山水	池泉を縮小 護岸の改修 池水が枯渇	空き家 水量減少 水質汚濁 管理困難
	下野島	戸波邸庭園	変化なし	変化なし		水量減少 水質汚濁
		市田邸庭園	池泉	護岸改修 池泉縮小	護岸の改修 取水部の改修	水量減少 家屋増改築
町屋	今小路	坂口(正)邸庭園	池泉	護岸改修 池泉縮小	池泉を縮小	水量減少 水質汚濁 駐車場確保
	新 富	坂口(繁)邸庭園	池泉護岸	護岸改修	池泉の護岸が一部コンクリート化	水質汚濁
		坂口(良)邸庭園	池泉護岸	護岸改修	庭園内の水路がコンクリート化	家屋増改築
	中 町	白木邸庭園	池泉	枯山水化 池泉縮小	3分の1を枯山水化	家屋増改築 水量減少 水質汚濁
		石田邸庭園	池泉	枯山水化	池の護岸が荒廃 池水が枯渇	水質汚濁 管理困難
		興膳邸庭園	池泉護岸	護岸改修	池泉が減少して、池が浅く なっている	空き家 所有者変化 水量減少 水質汚濁 管理困難
		高木(節)邸庭園	池泉	護岸改修 池泉縮小	池泉を一部枯山水に変更	家屋増改築
		高木(文)邸庭園	池泉護岸	護岸改修	池泉以外を改修	家屋増改築
		井村邸庭園	消失	消失	庭園消失	家屋増改築
		大庭邸庭園	池泉護岸	護岸改修	池泉を改修	水量減少 隣家の影響 管理困難
魚 町		田尻邸庭園	池泉	護岸改修 池泉縮小	池の一部がコンクリート化	家屋増改築 水量減少 水質汚濁
	小川邸庭園	池泉	枯山水化	水路以外は枯山水化	家屋増改築	
	篠原邸庭園	池泉	枯山水化	水路を残し全て枯山水化	家屋増改築	

表4. 池泉の変化

庭園名		変化なし	縮小 〔池泉一部消失〕	改修 〔池泉は維持〕	改修 〔池泉護岸〕	枯山水化
吉岡邸庭園			○			○
久野邸庭園	○		○		○	○
白水邸庭園			○			
後藤邸庭園	○					
戸波邸庭園			○		○	
市田邸庭園			○		○	
坂口(正)邸庭園			○		○	
坂口(繁)邸庭園					○	
坂口(良)邸庭園					○	
白木邸庭園			○			○
石田邸庭園					○	
興膳邸庭園					○	
高木(節)邸庭園			○		○	
高木(文)邸庭園				○	○	
井村邸庭園					○	
大庭邸庭園					○	
田尻邸庭園			○		○	
小川邸庭園						○
篠原邸庭園						○
合 計	2	8	1	11	5	

表5. 日常で感じる湿気

庭園名		非常に多い	時に多い	不快感は無い
吉岡邸庭園				○
久野邸庭園			○	
白水邸庭園				○
後藤邸庭園			○	
戸波邸庭園				○
市田邸庭園				○
坂口(正)邸庭園				○
坂口(繁)邸庭園			○	
坂口(良)邸庭園			○	
白木邸庭園				
石田邸庭園				○
興膳邸庭園				○
高木(節)邸庭園			○	
高木(文)邸庭園				○
井村邸庭園			○	
大庭邸庭園			○	
田尻邸庭園				○
小川邸庭園				○
篠原邸庭園				○
合 計	7	11		

表6. 池泉の水量変化

庭園名	多い	感じない	少ない
吉岡邸庭園			○
久野邸庭園			○
白水邸庭園			○
後藤邸庭園			○
戸波邸庭園			○
市田邸庭園			○
坂口(正)邸庭園			○
坂口(繁)邸庭園			○
坂口(良)邸庭園			○
白木邸庭園			○
石田邸庭園			○
興膳邸庭園			○
高木(節)邸庭園			○
高木(文)邸庭園			○
大庭邸庭園			○
田尻邸庭園			○
小川邸庭園			○
篠原邸庭園			○
合 計			18

表8. 池泉のごみ

庭園名	自然ごみ	生活ごみ	あまり無い
吉岡邸庭園	○		
久野邸庭園		○	
白水邸庭園	○	○	
後藤邸庭園	○	○	
戸波邸庭園	○		
市田邸庭園	○	○	
坂口(正)邸庭園	○		
坂口(繁)邸庭園		○	
坂口(良)邸庭園	○	○	
白木邸庭園			○
石田邸庭園		○	
興膳邸庭園		○	
高木(節)邸庭園	○	○	
高木(文)邸庭園	○		
大庭邸庭園			○
田尻邸庭園	○		
小川邸庭園			○
篠原邸庭園			○
合 計	10	9	4

表7. 池泉の水質変化

庭園名	良好	感じない	悪化
吉岡邸庭園			○
久野邸庭園			○
白水邸庭園			○
後藤邸庭園			○
戸波邸庭園			○
市田邸庭園			○
坂口(正)邸庭園			○
坂口(繁)邸庭園			○
坂口(良)邸庭園			○
白木邸庭園		○	
石田邸庭園			○
興膳邸庭園			○
高木(節)邸庭園			○
高木(文)邸庭園			○
大庭邸庭園			○
田尻邸庭園			○
小川邸庭園			○
篠原邸庭園			○
合 計		1	17

8. おわりに

秋月地区の歴史的庭園の多くは藩政期の武家屋敷と町家に作庭され、「野鳥川」を源流とする人工の水路から導水した池泉式の庭園である。庭園の形式と配置は水路と密接な関係にあり、池泉は水路か屋敷への用水導入の役目を担っている。池泉は水系の一部をなし、生活用水としての利用以外に防災上の役割も見逃せない。各戸の池泉は防火水槽的な役割も果たしてきたと思われる。

池泉庭園を構えることを可能にした大きな契機は生活用水、防災という実利的な要請からであり、池泉は生活空間の中に取り入れられ人々の生活と密接な関わりをもっている。

流れのある池水の庭園で特徴づけられる秋月地区の庭園は、16年間に殆どの庭園が改修または縮小されている。さらに「水量減少」や「水質汚濁」「管理困難」などの理由で庭園が消失したり荒廃したりしていることも明らかになった。こうした庭園の多くは私的な領域であるため、人の目に触れにくく、人知れず徐々に失われつつあるのが実情である。住宅が空き家になっ

表9. 保存したい理由（複数回答）

理由	回答数
(1) 昔からある	13
(2) 心が和む	12
(3) 自然を楽しめる	5
(4) その他	7

(単位：庭園数)

表10. 保存したい期間

期間	回答数
(1) 自分の代	10
(2) 子々孫々	2
(3) 息子の代	2
(4) わからない	1

(単位：庭園数)

表11. 保存できない理由（複数回答）

理由	回答数
(1) 管理困難	3
(2) 水質の悪さ	1
(3) 駐車場確保	0

(単位：庭園数)

たり、住人が高齢化して、日常的な手入れが行き届かなくなった庭園や個人の水路も多くみられる。庭池の給水源であるこの水路、及び水路沿いの庭園は、住人の高齢化、空き家により、家屋の荒廃が進行している。日常的な手入れが行き届かず荒廃している庭園も多く、保存対策を講じることが急務である。

要 約

近年、生活環境の変化に伴い、郷土色豊かな庭園が消失し始めている。本研究は福岡県秋月地方に散在する歴史的庭園の保全に関する現況調査と所有者への意識調査をおこなった。結果は1993年の調査時と比べ、17年間に消失したり、部分的に失われたり、枯山水庭に改修されたりと、何らかの改変があった庭園は19庭園中、17庭園であった。主な理由は水質の悪化や水量減少や住宅の増改築などがあげられた。その他に住人の高齢化や不在により、日常的な手入れが行き届かなくなり、荒廃している庭園も多くみられた。池泉式庭園において水量の不足は水路環境を悪化させ、町並み景観を損ねることにもなる。水源となる水路の保全と水量の確保が今後の課題であることが明らかになった。

参考文献

- 1) 永松義博(1994)九州地方における歴史的日本庭園の特性に関する研究 造園雑誌 **57**: 346-352.
- 2) 永松義博, 池田二郎(1995)長崎県神代地方における水環境と庭園形態に関する研究 日本庭園学会誌 **3**: 10-18.
- 3) 永松義博(1997)地域環境と庭園形式に関する研究 南九州大学園芸学部研究報告 **27A**: 23-34.
- 4) 永松義博, 田島基記(1998)地域環境と庭園形式に関する研究Ⅱ 南九州大学園芸学部研究報告 **28A**: 36-47.
- 5) 永松義博, 日高英二(2008)城下町秋月の町並み構成と庭園の特性に関する研究 南九州大学園芸学部研究報告 **38A**: 19-29.
- 6) 秋月御年請(全三巻)(年代不詳)秋月郷土資料館所蔵文書.
- 7) 望春随筆(全五巻)(1834)秋月郷土資料館所蔵文書.
- 8) 風土記再調草稿(年代不詳)秋月郷土資料館所蔵文書.
- 9) 秋月城下町伝統的建造物群保存対策調査計画報告書(1980)甘木市教育委員会.